

教育ファームで、もっと“ふるさと”が好きになる。

教育ファームは農・食・自然体験のワンダーランド

生産者と共に「食」や「農業」を学ぶ教育ファーム。札幌市内でこの事業に取り組む「市民体験農業を考える会」と「砥山農業クラブ」の2つの団体に、具体的なプログラムや実施成果についてお聞きしました。

都市近郊農地や遊休農地を活用した取り組み

農作業から調理・加工まで一貫して体験することで「食」への関心を高める



「市民体験農業を考える会」 中国三喜男さん

私たちの会で管理している農地は、自主管理ではなく、各家庭が責任をもって種まきから収穫までの一連の作業を行う家庭園です。共同管理は、カボチャやタマネキ、マンゴーやブドウなど、管理が難しい野菜を、通常は会の関係者が管理し、参加者は定期的に作業に参加するシステムです。当会では、普段農業にかかわる機会やきっかけのない親子、特に若い世代、お母さんたちに関心を持ってもらうことを目標としており、特許として、野菜の種まきや収穫だけでなく、収穫したものを調理・加工まで一貫して体験するプログラムを組んでいることで、すそ野を広げて、お母さんが普段なかなか食べない野菜にも関心を持ってもらい、野菜を中心とした食生活で、より健康になってもらえればと考えています。

「教育ファーム」最前線①

私たちが管理している農地は、自主管理ではなく、各家庭が責任をもって種まきから収穫までの一連の作業を行う家庭園です。共同管理は、カボチャやタマネキ、マンゴーやブドウなど、管理が難しい野菜を、通常は会の関係者が管理し、参加者は定期的に作業に参加するシステムです。当会では、普段農業にかかわる機会やきっかけのない親子、特に若い世代、お母さんたちに関心を持ってもらうことを目標としており、特許として、野菜の種まきや収穫だけでなく、収穫したものを調理・加工まで一貫して体験するプログラムを組んでいることで、すそ野を広げて、お母さんが普段なかなか食べない野菜にも関心を持ってもらい、野菜を中心とした食生活で、より健康になってもらえればと考えています。



活動に協力してくれる指導員は、市民農業者として指導して下さる「さっぽろ農学校」は、定年退職された方が農業に興味を持って受講する機会が多く、したがって参加者である若いお父さん、お母さんにとっては両親、子どもたちにとってはおじいちゃん、おばあちゃんのような感覚で接するため、世代間交流にもつながっています。



「市民体験農業を考える会」 札幌市中央区南1条東1丁目日大通りバスセンタービル1号館6階

生産者が協力し合って農業体験を実施 子どもたちの興味を喚起させる 魅力あふれるメニューを盛り込む



「砥山農業クラブ」 瀬戸修一さん

「教育ファーム」最前線②

私が東京から戻ってきて、実家の農業を継いだ当時は、札幌の農業従事者の間で自主的に農産物を販売したり、消費者と交流するなど、消費者に情報を発信する機会ほとんどありませんでした。そこで「同じ地域の農家と連携して、砥山農業クラブ」を結成し、農家が先生となり子どもたちとその両親に生徒になっ

てもらい農業体験を実施する「砥山農業クラブ」という活動を行っています。毎年5月から10月まで、月1回日曜日に各農家の畑を順番に利用して農業体験を行います。春のジャガイモ植えなどから始まり、夏はジャガイモ、果物の収穫、試食、中でもリンゴの木は、管理作業から収穫まで体験・観察します。リンゴの収穫作業は、お父さん、お母さん、名前を書いたリンゴに成長し、それを収穫する体験は好評です。

「農産小学校」では、果物や野菜などのように成長するの、農家の皆さんがどのように食べ物を作っているのかを、具体的に目の当たりにすることで、農作物に対して多くの知識を得ることができます。収穫した果物をその場で口にする、普段店頭には並んでいないものと、



「農産小学校」では、果物や野菜などのように成長するの、農家の皆さんがどのように食べ物を作っているのかを、具体的に目の当たりにすることで、農作物に対して多くの知識を得ることができます。収穫した果物をその場で口にする、普段店頭には並んでいないものと、

取れたての果物との違いを実感し、感激する子どもたちが多いです。またこの地域では何が取れるのか、畑の中はどんなところなのか、店舗に並ぶまでに天候や病気が、いろいろな苦労があることを理解できます。

実施後のアンケートでは子どもが楽しんでいる、良かった、また参加したいという感想が多く、今後もこの取り組みを周知させることで多くの参加者を募りたいと考えています。

プロフィール
8戸の農家が共同で2003年に結成した団体。活動拠点は、北海道石狩農業改良普及センター、札幌市農政部、各種ボランティア団体など。研修生は、幼児4人、小学生19人、保護者23人が参加した。

プロフィール
2004年に設立した任意団体で、札幌市農政部、北海道大学、(社)北海道農林士会、さくらみプロジェクトグループ連携体制で、次世代を担う子どもたちの食と健康を活動のテーマとし、種付け、管理、収穫などの農作業や、収穫物の調理加工までを親子で体験、日ごころから食育や食や共通の話題として関心を深めてもらい、食を中心とした食生活による健康づくりを推進する。また、農業を体験する場として都市近郊農地や遊休農地を活用、現在は、東区百鬼の北農園を会場として提供してもらい、約1000㎡を自主営農し、約2000㎡を共同営農場として利用する。研修生は3歳以上小学生以下の子どもを待つ親子20組70人が体験プログラムに参加した。

子どもたちの個性を発揮!



いろいろな表情のハロウィン・カボチャ

砥山農業クラブのハロウィン・カボチャづくり

ハロウィンカボチャは、収穫する子どもたちの個性が溢れる。成長するまでにオバケカボチャ、6月に苗を植え付け、収穫時にはなんと40〜50kgまで大きくなります。9月にカボチャを収穫し、10月にはいよいよハロウィンカボチャを制作。カボチャの上に10cmほどの穴をあけ、スプーンやおたまを使って種とワタを取り出し、カボチャの表面に各自思い思いの目、鼻、口をジックで書きこみ、その通りにナイフでくり抜くと個性豊かなハロウィンカボチャの完成! ほかにも、自分たちで育てたハロウィンカボチャを大きく重さを競う「ジャンボカボチャコンテスト」やカボチャをネットに吊るして栽培する「空飛ぶカボチャ」など、楽しい企画を盛りだくさん用意しています。

教育ファームは、農業体験を通じて豊かな郷土愛を育みます。

全国にひろがる教育ファーム

いま、生産者(農林漁家)の指導を受け、育てて食べる農林漁業体験の元気な輪がひろがっています。ふるさとを元気にする思いと実践の数々、詳しくは「教育ファームねっと」をご覧ください。
【http://edufarm.jp】

見なきや 損そん 教育ファームねっと

教育ファームとは……生産者(農林漁家)の指導のもと、作物を育てるところから食べるところまで、一貫した「本物体験」の場を提供する取り組みです。

全国各地のとれたて取材から実践の工夫を大公開! 現場のイキイキした声とともに、教育ファームの実践の醍醐味を紹介します。

ワークシート 参加者向け
↓他にも魅力あるコンテンツがたくさん↓
実践の助どころ 技あり! ちょっといい話
教育ファーム写真館 感動体験の足あと
平成20年度「調査報告書」体験成果の調査分析をダウンロード

地域を元気にする 食農体験活動のポータルサイト
全国各地で広がる教育ファーム(農林漁業体験)。これからはじめたい方、すでに取り組んでいる方にオススメの情報満載! 盛りりのウェブサイトを活用ください。体験活動で使える資料も無料配信中! 今すぐアクセス。

教育ファーム 検索
農文協 「教育ファーム推進事業」事務局 〒107-8668 東京都港区赤坂7-6-1 TEL: 03-3585-1144 FAX: 03-3585-3668 農林水産省 平成21年度「ふるさと食育推進事業」教育ファーム推進事業



「田んぼにでっかい魚が泳いでいる!」となったら、インパクトがあつたたくさんの人に足を運んでもらえるんじゃないかとスタッフたちは考えた。古代米など紫・白・黄・緑四色の苗を植えた…